

生態系ネットワークの形成

～生態系ネットワーク協議会～

(1) 「あいち生物多様性戦略2030」と「あいち方式2030」

2010年の秋に開催されたCOP10において、生物多様性の保全と持続可能な利用を進めていくための世界目標として「愛知目標」が採択されました。

「愛知目標」の達成に向けて、本県では「あいち生物多様性戦略2020」（2013年3月策定）に基づき、多様な主体の連携による生物多様性の保全に取り組んできました。

その取組の成果と課題を踏まえて、2021年2月に策定した「あいち生物多様性戦略2030」では、「人と自然が共生するあいち」を基本目標として掲げ、「生態系ネットワークの形成」を進めるための取組である「あいち方式2030」を重点的に推進していくこととしております。

(2) 「生態系ネットワーク」とは

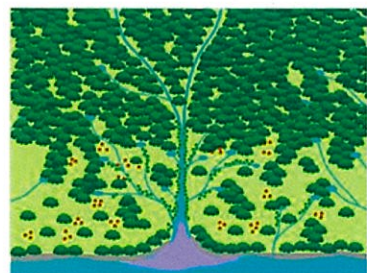
野生生物の多くは、ひとつのタイプの自然で一生を完結しているわけではなく、複数の異なるタイプの自然を利用しています。例えば、ニホンアカガエルは、卵、オタマジャクシの時は田んぼや湿地、子ガエルは草地、親ガエルは林で冬眠といった生活をしています。

また、遺伝的な多様性を保つため、移動できる範囲内に同じタイプの自然が複数存在することも必要です。さらに、開発などで動植物の生育・生息に適した自然がなくなった場合、移動できる範囲に同じタイプの自然があれば、その地域から絶滅する危険を減らすことができます。

このように、生物多様性を守っていくためには、同じタイプや異なるタイプの自然がネットワークされていることが必要であり、これを「生態系ネットワーク」といいます。

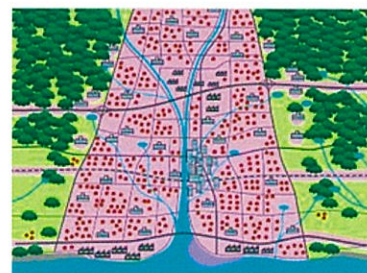
経済活動が活発な本県では、市街化が進んだことにより生物が住む場所が減少してきました。そこで本県は、県民が暮らし、働き、学ぶ、身近な場所に自然を取り戻し、持続可能な形で将来の世代に伝えていくために、土地利用の転換や開発などにより分断され、孤立した緑地や水辺などの自然を保全、再生してつなげ、生態系を回復する「生態系ネットワークの形成」に県内全域で取り組んでいくこととしました。

<過去>



地域本来の生態系

<現在>



開発などにより生態系が分断

<未来：本県の取組>



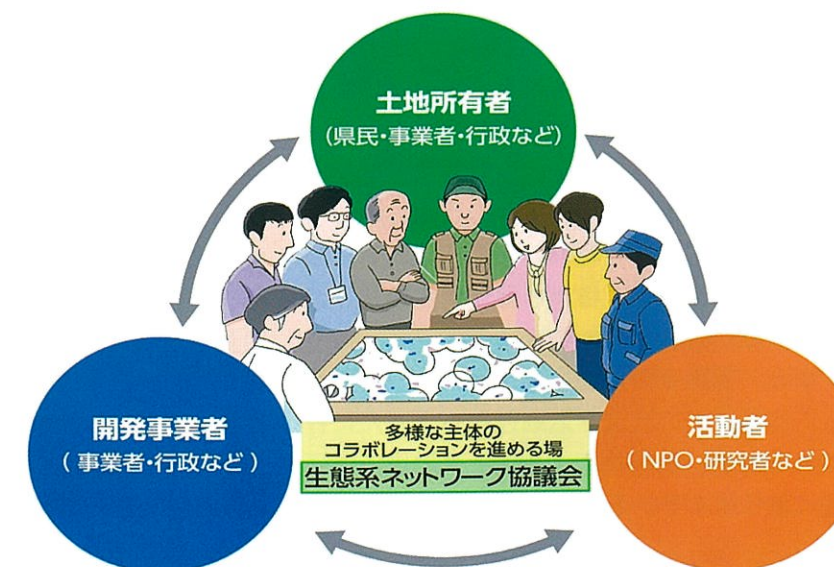
緑地や水辺を適切に配置し、生態系の分断を解消

(3) 「生態系ネットワーク協議会」とは

本県では、自然や社会の特徴に応じて県域を9地域に区分し、県内における「生態系ネットワークの形成」を目指して、地域ごとに多様な主体で構成された生態系ネットワーク協議会（以下、「協議会」という。）の設立を進めてきました。

各地域で設立された協議会は、地域特性を踏まえて独自性のある取組を展開しています。そのため、取組方針や取組方法、構成団体に至るまで、協議会ごとに様々です。

協議会の取組方針を特徴づけるものが、取組テーマであり、地域の独自性を反映させた内容となっています。構成団体は、学識経験者、企業、NPO、行政等ですが、そのバランスは協議会ごとに異なっています。次ページ以降で、設立順に県内9協議会の現在までの取組、今後の展望などを紹介します。



西三河南部

生態系
ネットワーク
協議会

広い視野から
生きものや自然を
とらえ活動をつなぐ

South West Mikawa

碧南市、西尾市、高浜市

西三河南部生態系ネットワーク協議会は、2016年(平成28年)2月に設立されました。27団体(2021年(令和3年)4月現在)で、干潟の保全・再生をはじめとして地域の生きものの生息環境の維持などを目的に、生きもの調査や外来種駆除、ピオトープの創出などの活動に取り組んでいます。

協議会テーマ
きらきら光る^{あお}碧い海
～西三河沿岸が育む
生きものたちのつながり～



一色干潟

干潟や川を中心に自然や生きもの・人をつなぐ

このエリアは広大な^{いっしき}一色干潟をはじめ良質な干潟が数多く分布し、底生動物が豊かで、シギ・チドリ類の中継地になっています。また、県内唯一の天然湖沼で、海水と淡水が混じり合った汽水湖である油ヶ淵もあります。

こうした干潟や川等を中心に、西三河南部地域の多様な自然をフィールドとして、企業やNPO、大学、行政等の多様な所属団体が連携し、生きものや人のネットワークをつなぐ活動を展開しています。



干潟観察会

地域活性化や、子どもの学び等につながる自然体験イベントを

例年、西尾市の一色干潟にて開催する「干潟の生きもの観察会」では、干潟に住む生物の多様性や干潟の機能等について、一般の参加者が楽しみながら学べる機会を提供しています。

西尾市東幡豆町にある愛知こどもの国は、広大な敷地と豊かな自然を備えた児童総合遊園施設です。愛知こどもの国をフィールドとして、カメや昆虫等の観察会などを行っています。

地域の自然や生物多様性が、将来を担う子ども世代の自然体験や環境学習、ひいては地域の魅力創出につながるような活動を企画・開催しています。



セイタカシギ
©高橋伸夫

ニホンイシガメ
©矢部 隆

コアジサシ
(株)ジェイテクト田戸岬工場 (高浜市)

アサギマダラ

地域の生態系

干潟、ハマシギ、
セイタカシギ、ゲンジボタル、
ヘイケボタル、
ニホンイシガメ



油ヶ淵 (碧南市)



愛知こどもの国 (西尾市)



生きものふれあい観察会

生きもの・自然をテーマに
取組をつなぐ

同協議会では、地域の企業・NPO・大学・行政といった多様な主体が連携して活動を展開しており、更に近年では大学生等のユース世代が活動に参加する等、多様な世代の連携もみられます。近年広まっている国連持続可能な開発目標(SDGs)においても、こうしたパートナーシップが重要になります。

地域の自然や生きものを保全し、生態系のネットワークや活動をつなげ、未来に渡すことを目指して、活動を展開していきます。



外来種駆除活動

【構成団体一覧】27団体

<大学等 3>

人間環境大学、愛知学泉大学、西尾市立室場小学校

<企業等 10>

(株)あいや、(株)エムアイシーグループ、(株)オティックス、(株)おとうふ工房いしかわ、山旺建設(株)、七福醸造(株)、トヨタ自動車(株)、(株)豊田自動織機、日鉄ステンレス(株)衣浦製造所、日東醸造(株)

<NPO等 6>

(NPO)愛知生物調査会、(NPO)フロンティア西尾、西三河自然観察会、西三河野鳥の会、へきなん市民環境会議、渡し場かもめ会

<農林漁業団体 4>

あいち中央農業協同組合、東幡豆漁業協同組合、西三河漁業協同組合、衣崎漁業協同組合

<行政機関 4>

碧南市、西尾市、高浜市、愛知県

<おもな活動>

- ・生きもの調査
- ・自然体験学習活動
- ・外来種駆除活動
- ・フォーラム等による普及啓発